

## 「第1回 令和元年台風第19号により被災した河川管理施設等の技術検討会」の指摘事項と対応について

令和元年12月13日

項目	意見内容	委員	事務局回答	備考
被災メカニズムの概要	● 流下能力の評価はH.W.Lで修正し、堤防形状により、完成堤防区間かH.W.L堤防区間か無堤区間かあるいは痩せ堤区間か記載してほしい。	服部委員	● 流下能力評価については、H.W.Lで表現しました。 ● 堤防形状については、完成堤区間、H.W.L堤区間、無堤区間に分類分けしました。	資料4 P12 資料4 P11
	● 形状（堤防の高さ、幅）・材料（堤体材）・外力（時間的な流量）・起こった結果（被災の状況、洪水痕跡）について、被災要因を分析する時のキーポイントとして考えてほしい。	服部委員	● 被災メカニズムの検討において、堤防形状、材料、外力、起こった結果をふまえて、分析しました。	資料4 P17 ~P22
	● 被災原因を分類することで、良い復旧工法が考察できると思う。 ● 推定については、実際に起こった事象と重ね合わせて被災原因の推定を行っていただきたい。	服部委員	● 被災メカニズムの検討において、被災原因を分類し、実際に起こった事象をふまえて、分析しました。	資料4 P17 ~P23
	● 今回の被災原因を踏まえ、堤防天端に舗装するなど少しでも時間を引き延ばすような対策の導入も検討してみてもどうか。	服部委員	● 工法検討時に天端舗装などの工法を検討していきたい。	資料4 P34 ~P35

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 復旧にあたっては、堤防及び基礎地盤の土層構成を把握し被災メカニズムを検証し、復旧箇所が弱部とならないような復旧工法の検討が必要である。</li> </ul>	佐々木 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 被災メカニズムの検討において、堤防形状、材料、外力、起こった結果をふまえて、分析しました。</li> </ul>	資料4 P17 ～P23
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 堤防の法肩部の被災痕跡等の痕跡情報を収集・整理し被災メカニズムを紐解いていく必要がある。</li> </ul>	田中 座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 堤防の法肩を含めて、被災箇所を整理しました。</li> </ul>	資料4 P15
その他 (今後の対応について)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今回の雨がどの程度の確率の雨であったか、流量はどの程度であったか、今後の復旧はどの程度の規模を行っていくか検討していくこととなるが、豪雨時の対応について、警戒避難態勢も含めて検討していく必要がある。</li> </ul>	水越 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今次出水の降雨確率、被災流量を分析しました。</li> </ul>	資料4 P6
			<ul style="list-style-type: none"> <li>● 復旧計画時の計画流量については、工法検討時に検討していきたい。</li> </ul>	次回 以降
			<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今後の豪雨時の対応については、ハード対策、ソフト対策も含めて検討していきたい。</li> </ul>	次回 以降